第１３期 第３回 鳥取市校区審議会 議事録

１　日　時　　平成２８年１１月４日（金）１４時００分　～　１６時１５分

２　会　場　　鳥取市役所　第２庁舎　５階会議室

３　出席者　　【委員】
本名俊正委員（会長）、野口淑文委員(副会長)、渡辺勘治郎委員、長谷川誠一委員、松ノ谷博委員、大村匡由委員、川口有美子委員、山田康子委員、牛尾柳一郎委員、田中弘之委員、森本早由里委員

【教育委員会（事務局：校区審議室）】
木村義彦次長、石上直彦主査兼指導主事、大坪宗臣主任

４　会議次第　　１ 開　会
２ 会長あいさつ
３ 議事録署名委員の選任
４ 報告
（１）第２回校区審議会審議概要について
（２）校区審議に関連する活動報告について
（３）「鹿野地域小中一貫校推進委員会」の検討状況について
（４）「江山校区の学校のあり方を考える会」について
（５）「逢坂の教育を考える会」の検討状況について
５ 議事
（１）第４回校区審議会現地視察について
（２）議論が必要な学校区について
６ その他
７ 閉　会

５　議事の概要

事務局
定刻になりましたので、只今より、第３回鳥取市校区審議会を開催します。
本日は、吉澤委員が所用のため、ご欠席です。また、〇〇委員も３０分程度遅れられるとご連絡をいただいております。
前回は、「かんどの教育を考える会」の会長、副会長にお出でいただき、要望書についてのご説明をいただいたところです。その後、意見交換等を行っていただき、江山中学校エリアのご審議をいただきました。この江山中学校エリアにおいては、先月、「江山校区の学校のあり方を考える会」が立ち上がりましたので、後ほどご報告をさせていただきます。
本日の議事 1 では、前回の審議会でも委員の皆さんからご提案がありましたが、神戸小学校、江山中学校エリアの視察の内容についてご審議いただきたいと考えております。また、議事 2 ですが、江山中学校エリアを含め、議論が必要な学校区についても広くご意見をお伺いできたらと思います。慎重なご審議、どうぞよろしくお願いします。
それでは、会長、議事の進行をお願いします。

会長

皆さん、こんにちは。本日は、お集まりいただきありがとうございます。

色々な資料をさかのぼって見ているのですが、鳥取市は合併して広い地域になったことにより、それぞれの学校、地域が抱えている課題が非常に多様であると感じました。それぞれの地域で工夫されながら、学校のあり方、それを突き詰めると、どういう子どもを将来育てるのか、そのためにどういう教育をしたらいいか、そういった内容の突っ込んだ話がどの地区でも持たれているような気がします。

今日の読売新聞に、神戸地区の隣の美和小学校が出ておりました。「美和小学校で学力向上へ午前中５時間の授業を始めている」ということです。全国でもいくつかあるようですが、午後は比較的体を使ったり様々な時間に充てるということで、朝は 8 時 15 分に授業を始めて、14 時過ぎには終了して、先生方も色々な仕事に対応できる、子どもは早寝早起きになり、非常に規則正しい生活が送れているという記事でした。

このように学校によってさまざまな取組があると思うので、色々な学校を今後も視察させていただきながら、時代とともに変わっていく部分はあると思いますが、子どもたちの成長のためにこの校区審議会でさまざまな取組を評価しながら、いい形での提案ができればと思います。どうぞ自由に忌憚のないご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは、議事録署名委員ですが、当初の予定では、吉澤委員と川口委員なのですが、吉澤委員が本日ご欠席ですので、次回以降どこかでお願いすることとし、今回は川口委員と山田委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

続いて、お手元の資料の報告事項５項目を一括で説明いただき、質疑応答は一つずつ行いたいと思います。

事務局

［資料説明］

会長

一括で説明いただきました。報告事項の質疑応答について一つずつ進めてまいります。（1）は議事録の概要ですが、よろしいでしょうか。

（2）は活動報告ですが、前回の審議会から本日までの事務局が行った内容をまとめていただいております。「江山校区の学校のあり方を考える会」が発足し、議論が始まっているという状況です。

（3）は「鹿野地域小中一貫校推進委員会」の検討状況について、かなり詳しい資料の説明がありましたが、いかがでしょうか。参考資料の 4 ページにありますように、「平成 30 年 4 月 1 日開校目標とする」ことを会としては決定しているということです。今からですと約 1 年半後です。委員 20 名で様々な検討を始めているということです。参考資料 3 ページにありますように、推進委員会は 2 つの部会が設けられていて、「すごい！学校創造部会」と「鹿野の宝応援部会」で、具体的な教育の中身・推進内容について、もう一つは地域の支援体制などについて話し合いを進められております。参考資料の 7 ページをご覧いただきたいと思います。小学校と中学校は 750mくらい離れていることですが、そこで小中一貫校に向かっていき、将来的には校舎が一体となることも想定しておられると思うのですが、現在のところ離れた校舎で小中一貫校をつくっていこうとされているようです。私が関心を持っている部分ですが、小中一貫校（施設分離型）となっていまして、初等ブロック 2 年間、中等ブロック 3 年間、高等ブロック 4 年間ということで、小学校の 6 年間と中学校の 3 年間のところ、初等・中等 5 年間の教育を小学校の校舎で行い、高等の 4 年間を中学校の校舎で行うということも検討されているようです。これにより、かなりカリキュラムの中身が変わっ

てくるのではないかと思います。そういう新しい教育を目指したいということだと思います。6 年生は教科担任制が入りますので、中学校と同じような形になるということのようです。この点を含めて何かお気づきの点、ご質問などはございませんでしょうか。〇〇委員さん、このような形というのは全国で工夫されてどんどん入ってきているのでしょうか。また、この狙いは何でしょうか。

委員

そこまで珍しいタイプではないと思います。

狙いの一つとしては、中 1 ギャップの解消が挙げられると思います。小学校を修了して中学校に進学した時に様々な学校文化の違いに子どもたちが戸惑い、なかなか適応が難しく、いじめや不登校が起こるなどの問題をなるべく起こらないようにするために小学校 6 年の段階から、中学校生活に移行してもらって、学校に馴染んでいただけるようにすることが一つだと思います。

また、教科担任制ということで言いますと、小学校高学年になるとかなりレベルも上がってまいりますので、専門の教員から指導を受けて、理数教育、音楽や体育などの実技教育などで専門性を高めていくことで、早い段階で慣れていただくということにつながるということがよく指摘されているところです。

会長

よくわかりました。新しい取組にはこのような狙いがあるようです。

他に何かご質問はよろしいでしょうか。

そうしましたら、（4）の「江山校区の学校のあり方を考える会」についてということで、ここのところが大きな課題になると思いますが、事務局で地図を使ってもう少し簡単にご説明いただけませんか。

事務局

前回の参考資料 10 ページの地図をご覧いただきたいと思いますが、右上に美和小学校がございます。美和小学校区は大和地区と美穂地区 2 つの地区からなっています。江山中学校と美和小学校は約 800ｍの距離があります。神戸小学校は江山中学校から約 5.7ｋｍ離れているところにございます。神戸小学校区は神戸地区のみ 1 地区です。中学校へは、神戸小学校と美和小学校の児童が一緒になって、江山中学校に進学していくという形になっています。

会長

特に神戸小学校は児童がかなり少なくなっていて、なおかつ遠いこともありますが、今の構想の中では美和小学校になるべく早い時期から移したいという保護者からの希望もありました。「江山校区の学校のあり方を考える会」の会議も委員が決まって進んでいるようです。

また、我々の現地視察もありますので、現地で見ていただく内容や、ご質問等も考えておいていただけたらと思います。

まだ先の話ですが、小中一貫になるのか、小学校のみの合併になるのか、そのあたりの詳しい検討が地域でなされると思います。

それでは、報告の（5）に入ります。「逢坂の教育を考える会」の検討状況についてですが、こちらも児童数がとても少なくなってきています。6 ページについて、ご質問等がありましたらお願いします。住民説明会の参加者もまだ少ないようですし、もう少し多くの方に説明が行き届くにはまだまだ工夫が必要かなと思います。アンケートが実施されるようですので、その意見をもとに、様々な会合がここでも進んでくると思います。

ここまで、鹿野と江山と逢坂の 3 つの地区の説明がございましたが、ご質問はよろしいでしょうか。

委員

私は鹿野に住んでいますが、3～4 日前に鳥取市の市報とともに「すごい！学校づくりかわら版第 2 号」が配られていました。地域の方に周知を図って頑張っておられるのですが、自分の母親や近所の方にざっくばらんに話をする中で「鹿野も人数が少なくなってきたな。小学校と中学校が一緒になるという話を聞いたけど、どういう形になるのかな。」というようなことで、具体的な形について地域の方はまだわからないところがあります。例えば、「小学校の 6 年生から中学校の校舎に入って勉強するということも検討しているようです。」という話をしましたら、「どうしてそのようなことをするのか。」という反応が返ってくるわけです。

申し上げたいのは、逢坂にしても江山にしても、まだまだビジョンや方向性や目標を論議されないといけないのですが、周知をするときに具体的に話をして、その話に関心を持っていただくということは非常に大事なことだと思います。例えば、逢坂、江山で説明会が開かれました。そんな時に私たちも個人的な意見だが、こんな熱い思いを返した方がいたとか、このような内容があったとか、要望書が出される前に私たちも具体的な情報を持つことが大事です。

双方向の関係の中で、何をもって話をし、説明をして理解・納得をしてもらうかということがすごく大事だと思います。例えば、事務局から鹿野、江山、逢坂の特徴的なことを並べることによって、私たちの審議の論点がまとまるのではないかと思います。そして、保護者を巻き込み、地域の方も巻き込みながら、そして丁寧な説明をしていきながら学校づくりをしていくことが大事だなと思います。

会長

〇〇委員の言われたことは、我々自身の課題でもあるわけですね。つまり、我々が各校区の「教育を考える会」から話を聞いて、地域の考えがまとまる前から関わって、2 ヶ月に 1 回程度の会でできることだけやればいいというのではなく、未来につながるような提起をしていきたいと思います。地域の方が「それはいいことだ。」となるような仕組みを提案していかないといけないと思います。

例えば、先ほどの地域の方のお話について言えば、「小学校が 5 年で終わりになると、小学校の児童会は 5 年生が取り仕切るのか。」ということも考えられると思います。それに対して、「何かおかしいな。」という気持ちもあるかもしれません。

他にご意見、ご質問等はありますか。

委員

各校区の検討組織などの委員さんの選出に関して、小学校・中学校の委員さんはおられるのですが、保育園・幼稚園の委員さんがいらっしゃらないのではないかと思います。小学校 1 年生で学校に行き始めるということで、子どもにとって環境が随分変わってくると思います。中 1 ギャップもあるのですが、小 1 プロブレムについて、鹿野のこじか園さんが関わっておられるのですが、逢坂、江山については、保育園が関わっておられるのでしょうか。文科省と厚労省の管轄の違いもありますが、やはり子どもの先を見越して、保護者さんも巻き込んで議論された方が私はいいのではないかと思います。

事務局

説明が十分でなく、申し訳ございませんでした。江山については、資料の 5 ページの別表 11 番に保育園後援会会長に入っていただいております。逢坂については、6 ページに保護者代表 5 人と括っておりますが、小学校と保育園の保護者さんに入っていただいております。失礼いたしました。

会長

それぞれの組織に幼稚園や保護者の関係者さんも入っておられるということですね。

委員

参考資料の 7 ページの鹿野のビジョン図についてですが、小中一貫校というのは校長がつかさどり、教育活動を行う上での柱になると思います。この図では、地域という言葉が上部や下部に出てきております。色々な方が関わって地域の活性化にもつなげるという意図はわかります。私も町内会長をしていましたが、実際の自治会の活動は、とても忙しいです。自治会の活動を支える人は決まった方がやっておられます。ややもすると、順番でやっている自治会もあると思いますが、1 年限りの順番制というのでは地域の活性化にはなかなかつながらないと思います。やはり、地域の歴史も熟知している、若い地域の方も知っているような方が必要ではないかと思います。地域の活性化に子どもたちや学校が使われてもいいのですが、であれば、市長部局ともしっかりと話をし、色々なことをご存知の委員さんがいないと会を円滑に運営できないのではないかと思います。

自治会長やまちづくりの会長さんは、ただでさえ非常に多忙ですし、さらに「教育を考える会」の会長などを務めていただくというのは、大変ではないかという心配があります。

今、〇〇委員さんがおっしゃったこともよくわかります。今まで関わっていない方は、全くわかりませんので、そこから説明するということについて、「誰が説明をするのか。」と考えると、私たちがしない限り、全部自治会になると思います。その役割を誰がどう担うのか審議しておかないと、このビジョン図ではすごくまとまっていますが、難しいと思います。

●●委員さんはどう思われますか。

委員

今、おっしゃられましたように、今年初めて会長になられた方が、「教育を考える会」の役になっても、何もわかりませんので続かないです。私のところも色々な役員を付けるのですが、結局最後まで私がどれも関わらないと続かないです。地域創造学校もやっていますが、この会長職も頼まれたのでやったり、まちづくり協議会も色々な会長を掛け持ちしてコントロールしています。この方にやってくださいという指示ができる方が上にいらっしゃらないと、ただ名前だけの方がなってもいけないと思います。前回、神戸地区の前自治会長が出席されていましたが、あの方より前の方たちは取り組めませんでした。前自治会長が初めて取り組まれて、あの方が会長であればできるのではないかと思いました。「江山校区の学校のあり方を考える会」には、前自治会長も入っておられますが、こうした方が委員に入られるといいと思います。やはり、最後まで責任を持ってやっていくという気持ちを持った方がおられないと続かないと思います。

会長

ありがとうございます。

他に、感想でも結構ですのでございませんか。

事務局

例えば、鹿野ですと地域代表ということで 6 名、そのうち 4 名は「鹿野地域の教育を考える会」でずっと検討してこられた方に委員に入っていただいております。江山については、〇〇委員がおっしゃられたような方が委員で入っていただいております。ただ、●●委員さんがおっしゃるように、1 年ごとに委員が変わるということは少し好ましくないと思いますが、これは地域の実情がありますので、こちらがどうしてくださいとははっきりとは申し上げられません。しかし、できましたら、この「教育を考える会」ですとか、あるいは推進委員会の任期中についてはできるだけ現任の方でお願いをしたいという考えは持っております。

それから、先ほど事務局から説明させていただきましたが、区長会や集落への説明にも校区審議室の職員がオブザーバーという形にはなるのですが、出向いて行き、お話を聞かせていただいたり、参加者からの様々な問いかけについて答えさせていただいているという状況であります。どこがコントロールしていくのかというお話がありましたが、それはもちろん各「教育を考える会」や推進委員会において組織としてまとめていただく形になりますが、私たち行政の立場として積極的に関わっていきたいという考え方は持っています。

委員

もう一つ参考までにお伝えさせていただきますが、先日、自治連の会長会で岡山に視察に行ってまいりました。今年の議題は、「教育を考える会」を立ち上げるということであったので、岡山に「あしもり学園」という小中一貫校にはなっていないですが、建物は小学生、中学生が入れる大きな建物が建っています。その中に、足守中学校と蛍明小学校という別々の名前の学校が入っています。いわば、小中が一緒に同居している小中一体校のような形です。中学校は蛍明小学校以外の小学校からも入って来ますので 200 人くらいいるのですが、小学校は蛍明小学校の 100 人しかいません。中学校が 200 人であれば、小学校は 400 人くらいいるはずなのですが、まだ他の校舎にある同じ中学校区の小学校に通っておられる児童もいるとのことでした。蛍明小学校以外の小学校も入れようとしてすごく広い建物を建てたのですが、まだ入っておられないということです。

視察に行かれた地区会長さん、会長会でも話題になったのですが、自分の地域が学校統合等の課題があるかないかは別にして、「まず、子どもたちの教育を考えるということはとても重要なことですので、どこの校区も『教育を考える会』をつくってください。」と話しましたら、皆さんがだいたいその気になっておられます。自治会長さんの中でも 5 年程度務めておられる方が全体の半分くらいおられますので、そのような方が中心になってこれからは進めていかれると思います。

自治会でも会の度に、「『教育を考える会』をつくってください。」ということを言っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

会長

色々な事例を挙げていただいて、新しい学校のあり方を地域の方の理解をいかに求めるかを含めてお話をいただきました。今、報告事項についてご意見をいただいたわけですが、その辺りを踏まえて、議事に入りながらさらに深めていきたいと思います。よろしくお願いします。

では、議事（1）に入りたいと思います。まず、事務局より説明をお願いします。

事務局

［資料説明］

会長

12 月 16 日の午後、このような日程で進めたいと考えておりますがいかがでしょうか。あるいは、このような方とお話をしたいとかという要望がございましたらお伺いします。視察先は学校ですので、校長先生をはじめ先生方とだけお話をすることになりますね。

事務局

今のところはそれを考えておりますが、もしもっと別の方にということであれば、依頼ができるかと思います。

会長

午後ですが、小学校は授業はありますか。

事務局

ちょうど掃除の時間にあたるかもしれません。2 時前後から 5 校時が始まります。授業に合わせたような日程にさせていただいた方がよろしいでしょうか。

会長

そうですね、少人数での授業がどのような感じなのか見ておく必要があるかと思います。おそらく保護者はそういったことを心配されておられるのではないかと思います。

事務局

では、この日の学校の日程を確認して、授業参観できるような日程を組ませていただきたいと思います。

会長

他はございませんでしょうか。

前回の審議会で、神戸小学校の保護者などの考えについて色々お話を伺いましたが、今回は学校を中心ということで、よろしいでしょうか。

前回いらっしゃった会長と副会長にも同席していただいて、視察の中で、委員から何かご意見があればまたお伺いするということについても、ご検討していただければと思います。

事務局

わかりました。

会長

もしこの後、もう少しここを変えてほしい、あるいは付け加えてほしいということがありましたら事務局にご連絡いただければと思います。この予定で次回第 4 回を開催したいと思います。よろしくお願いします。

それでは、続きまして議事の（2）に入ります。事務局に資料を説明していただき、検討してみたいと思います。

事務局

［資料説明］

会長

12 期の中間まとめ一覧表にある江山中学校エリアについては、「教育を考える会」もできていますので、最終的には結論を出すことになると思います。新しい形の学校は、早くても鹿野より 1 年先くらいになるだろうと考えています。その前に、きちんと新しい学校にするのかしないのか結論を出すことになると思います。「教育を考える会」の内容を受けて少しずつ検討が進みますが、それの第 1 歩として 12 月に現地見学をさせていただくということです。

千代川以西エリアについては、中間答申が出ていますが、これを受けて我々13 期としてある程度詰めていくことになると思います。

中心市街地エリアについては、検討が進んでおりませんので、地域との連携を取りながら課題を 13 期の中で整理をしていくということになります。

小規模小学校については、先ほど逢坂の報告がありましたが、これについても 12 期では検討されていませんので、ある程度検討を進めるということになると思います。

例えば、中心市街地エリアについては〇〇委員が遷喬小学校のＰＴＡをされておられますので、どのような状況なのか何かお話しいただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員

この審議会の委員になる前には、遷喬小学校を含む中心市街地エリアが審議の対象になるとは思っていませんでした。ＰＴＡでも生徒数、学校の配置について話が出ていたわけではありません。ただ、今回この委員を受けさせていただいて、一とおり今までの流れを見させていただいて、「こういうことがあったのだ。」と気づきました。遷喬地区からだけではわからなかったのですが、他の地域から見た醇風、日進、久松、遷喬というのは近い場所に立地していて、いびつな構造になっていると思われていたのだなということがよくわかりました。

それを受けて、ＰＴＡの理事会等でも、「他の地域から見たら児童数が少ないということもあるし、近いエリアに小学校が多数あるということも課題としてとらえられていることを含め、皆さんも色々と考えてほしい。」ということをお話しました。併せて、自治会長さんにも「近いうちにここも校区審議会での議論の対象になると思います。」ということをお話しに行きました。そうすると、自治会長さんは、自治連会長の〇〇委員さんからもお話があった様子でして、「薄々わかっていた。」ということでした。「地域で、教育のあり方を考えていくということは、大切であるということがわかりましたので、「教育を考える会」を立ち上げていくのはいかがでしょうか。」というお話をさせていただいているところです。そして、どういうメンバーにするかということについて近い時期に自治会長とお話をする段階です。

確かに、遷喬地区の場合、日進小学校が近いのに遷喬小学校に通っているケースもありますし、反対に、修立・久松・醇風小学校においては、遷喬が近いのにそちらの学校に通っているということもあります。例えば、醇風小学校の前に家があるのに、久松小学校に通っておられるということもありますので、こういうことで議論の対象になるということは理解できます。

会長

ありがとうございました。どの小中学校も長い歴史がありますので、なかなか児童生徒数が減ったからといって、次の段階に進めない、今のままで何とかなるのではないかと常に思っておられると思うのですが、激減してまいりますので、審議の対象となったり、あるいは地域で考えていただ

かざるを得なくなっている状況にあると思います。児童数がどのように変化するのかというのは普段の生活の中ではなかなかわかりません。委員になられた機会には、あまり急いで話を進めるよりは、十分に準備をしていただいた方がいいと思います。また状況をお伝えいただければと思います。よろしくお願いします。中心市街地エリアについて、13 期で検討する必要があると思います。

それから、江山については、「教育を考える会」の結論を待つということもありますが、「教育を考える会」の会議に我々の中から数名でも場合によっては出席させていただいたり、当然事務局は行かれるでしょうから、何か情報を早く校区審議会も知っておく必要があるかなと思います。「教育を考える会」の結論が出てから議論するのではなくて、結論が出る過程をよく知っておかないといけないと思います。

千代川以西エリアについては、先ほど中間答申を見ましたが、なかなか難しいところです。線路や橋があったり、児童の安全もそうですが、歴史的な背景もあります。中間答申が出ていますので、これを受けてさらに検討を進めていきたいと思います。

小規模小学校については、逢坂が今、検討に入っていますが他の学校でも児童の激減がありますので、この審議会としては常に念頭に置いてどういう形がいちばん児童にとって望ましいのか、地域の方々のご意見が出やすいような仕組みを作っていきながら検討を進めていかなければいけないなと思います。

〇〇委員に中心市街地エリアの様子についてご説明いただきましたが、他に、委員の皆さんの地元の校区などの状況について何かございますか。

事務局

小規模小学校である瑞穂小学校についてご報告があります。市の執行部が各地区に出て説明する地域づくり懇談会が 7 月に瑞穂地区で開催されたのですが、小学校のあり方をテーマにして議論されたということがございました。逢坂では「教育を考える会」が立ち上がっていますが、瑞穂でも地域の方に今の現状をお知らせしたいということから、説明をさせていただいたところでございます。瑞穂では具体的な動きがなされているわけではありませんが、近隣の状況や校区審議会での審議の動向などを紹介させていただいたところです。

副会長

少子化に伴って今後は小中一貫校などが増えていくと思います。これまで湖南学園の成功例などもお聞きしてきました。現在、鹿野地域で一貫校づくりについて検討が進められていますが、義務教育 9 年間について、鹿野地域の中で自由に 5・4 ブロック制や新設教科などが展開できるのでしょうか。国の制度も絡んでくると思いますが、どの範囲まで独自性を出すことが可能になるのでしょうか。

事務局

ブロック制は、小学校で言いますと例えば低学年・中学年・高学年という括りをするようなもので、学校の中で独自に設定できるものであります。

今の制度での小中一貫校の形としては、「義務教育学校」という 9 年間の学校と、あくまで小学校と中学校を併設していくという 2 つの形がございます。後者の場合であれば、小学校 6 年と中学校 3 年というのは制度上、変えることができません。

副会長

例えば 6 年生が中学校で学習することになるということは、6 年生のカリキュラムが変わってく

るのか、単純に中学校の校舎で学習するだけなのかその辺りはどうでしょうか。

事務局

鹿野の場合で考えますと、例えば 6 年生が中学校の校舎で学習するとしても、位置付けはあくまでも 6 年生ということになります。

ただし、昨年、文科省が定めた「義務教育学校」や「小中一貫教育校」ですと、9 年間の教育課程を編成した届出を市に行えば、中学校の内容を小学校に移したり、小学校の内容を中学校に移したり、学校独自のカリキュラムを組むことができるようになります。

また、資料の中にも新設教科というのがございましたが、独自に設定することもできます。ただし、国が定めた学習指導要領に沿ってということが大前提ではあります。

副会長

そうすると、ある程度 9 年間の中で自由に設定できると捉えてよろしいわけですね。では、9 年間の一貫校と一般の小中学校の間において、転校生などについては特に問題はないのでしょうか。

事務局

やはり、そこが一番の課題になるところでして、転入生、転出生に対する手立てを明確にしておかないと自由なカリキュラムの移行をしてはならないということになっています。

委員

ということは、施設が分離しているとそのあたりの手立てが難しいのではないでしょうか。やはりその面では施設が一体の方がやりやすいのではないでしょうか。

事務局

湖南学園のようにブロックが分かれていて、9 年の子どもが一緒に生活している一体型であれば自由に交流や合同の学習も組めるのですが施設が分かれていれば、物理的にも時間的にも 5 年間の子どもたちと 4 年間の子どもたちが日常的に交流することが難しくなりますし、教職員も校舎を移動して指導していくということもやはり一体型より制約があるのは事実であります。

会長

分離型というのは一体型への移行過程ということで考えればいいのでしょうか。9 年の小中一貫教育を同じ場所で行わないと教員や生徒の交流がなかなか難しいですし、教育効果が最終的に上がらないのではないでしょうか。校舎分離は今の事情でやむを得ないので、当面は現在の校舎を活用される方向ですが、将来的にはどちらかの校舎に移すという考え方も必要かと思います。

事務局

小中一貫校推進委員会の委員さんの中には、そのようなことをおっしゃっている方もいました。中学校のある校舎は、鹿野城跡の中にありますので、鳥取城跡と同じように今後建て替えのような大規模な工事が難しいということがあります。ただ、耐震工事は行っておりますので、今回の大地震でも中学校の校舎は破損がなかったと伺っています。

しかし、10 年、20 年先を考えますと、校舎が使えなくなるということもあるので、そうした時期

になれば一体型への移行も検討していかないといけないというご意見も出ています。

事務局

鹿野中学校は、西高と同じように史跡になっております。したがって、今後建て替えを行うのは難しいということのようです。

また、施設的にもかなり老朽化が進んできていますので、いずれかの段階で、施設一体型の検討もなされる状況になっていくことが想像されます。

会長

状況がよくわかりました。

現在、4 つのエリアについて意見をいただいておりますが、次回以降、視察を含めてもう少し踏み込みながら進めていきたいと思いますが、今、気になっておられることを含め、委員の皆さんから順に伺いたいと思います。

委員

それぞれの地域で皆さんがよく考えられていると感じました。小規模校のある地域でまだ検討組織が立ち上がっていないところがありますので、私たちからも働きかけを行い、より良い学校教育というものを考えていきたいと思いました。

先月、ある国に行ってきたのですが、その国では一つの学校で午前中に小学生が勉強し、午後から中学生が勉強をしていました。それでも、まだ学校に通える子どもたちは幸せで、通えない子どもが大半を占めるという状況を目のあたりにしました。このような機会がありましたが、そのようなことも踏まえて、この審議会で今後協議していくことはとても大切だと思いました。

委員

どうしても、地元の学校に目が向くのですが、小規模小学校の瑞穂、逢坂、それから宝木、浜村とあるのですが、地域での取組にも違いがあります。瑞穂や逢坂は比較的危機感があります。私は宝木なのですが、宝木の小学校も児童数が少なくなってきていますが、地元にはあまり他と一緒になるというような気持ちはあまりなく、今のままでいいのではないかと感じておられるように思います。しかし、隣の瑞穂ではかなり地域で話をされているようですので、宝木でも話がいずれ起こってくるのかなと思っております。

委員

それぞれの地域にそれぞれの歴史的背景があり、一朝一夕には話をまとめることはできないと思いますが、地域や保護者の意見が出やすいような場を増やせていけたらと感じています。現状についての説明というのは大事なことですので、そうした説明を通して地域や保護者の意識も変わってくると思います。この審議会に出て、ずっと思っていたことは、自治会や町内会の会長さんが 1 年ごとに変わっていかれて結局次につながっていかない、あるいは振り出しに戻ってしまい、話が進まないということがあります。神戸地区がそうであるように、話がまとまるまでは会長を続けていただくような体制をとっていただければというように思います。

千代川以西エリアについての話も第 12 期でも出ていただのですが、安全面のことが非常に気になっていました。私も実際に子どもたちが通学しているときに一緒にそばまで行って様子を見させていただいたのですが、安全面のことを考えられて保護者以外にも地域の方が立っていらっしゃいました。それでも死角はかなりありますし、そのような点で、この地域については早急に考えていか

なければならないと思いました。地域の方にも意識付けを強くしていく必要があると考えています。

委員

今日の会の中で 2 点、気になる点がございました。

1 点目は、「江山校区の学校のあり方を考える会」ですが、そちらの設置期間が半年ということで、来年の 3 月末までに中身を決定していくというように出ていますが、神戸校区の問題はそこが中心にはなるのでしょうが、江山校区としてのあり方の結論も果たして残り 5 か月で決定できるのだろうかと思いました。

もう 1 点は、議論が必要な学校区ということで、小規模校の話が色々と出てきていましたが、自発的に地域の中で学校をどうしていくのかという話が出てくるのか、この審議会で対象の地域であると働きかけをするのか、どういった形で進んでいくのだろうかということが気になりました。

委員

議論が必要な学校区ということで、4 エリア挙がっていますが、私たちの任期の 2 年間で 4 エリアについて答申を出すという目標なのでしょうか。

会長

答申は、なかなか全部は出ないだろうと思っています。審議は継続していくのですが、最終答申は 1 つあるいは 2 つ出ればいいかなと思っています。

委員

それぞれのエリアで抱えている事情、直面している問題など、議論の文脈が全く違います。例えば、学区の変更、適正配置の問題というのは千代川以西の話になると思いますし、小規模小学校のエリアの話であれば統合を含めた話になるでしょうし、江山中学校エリアですと、小中一貫を含めた一貫教育の話、鹿野ですとさらにコミュニティ・スクールという話も出てきており、それぞれのエリアで抱えている事情、文脈が異なるので、私たちもそれぞれについて丁寧に勉強しないといけないと思います。県外も含めて様々な先進事例を私たちが勉強することで、提言までいかなくとも、議論する時の手がかりやヒントが得られると思います。急を要するエリアもあるとは思いますが、それぞれの文脈を私たちがしっかり意識して今後議論をしていく必要があるのではないかと感じています。

副会長

来月 16 日には視察に行きますので、事前に、どういう問題があるのか、どういう部分をしっかり見る必要があるのか、考えて臨みたいと思います。

委員

「教育を考える会」で考えていただくことは、一つは統合ということがあります。また、子どもをどのように育てるかということももう一つあります。小規模校については主に統合ということについて考えておられますが、適正規模である学校についてはどのように子どもの教育を進めていけばいいのかを考えるなど、地域によって会の議論の形が色々あると思います。統合だけでなく、教育のあり方について考えていただくということをどこの校区にも呼びかけていただくことが必要だと感じています。

旧市内でも大規模校、小規模校がございます。例えば、周囲の方々からの話ですが、遷喬はもと

もと 1,000 人くらいいた学校です。若い方が少なくなったので、今のような数になったということですが、遷喬校区に若い方が入居しやすいマンションなどがたくさん建てば、遷喬も 200 人でも 300 人でも増えるではないかという話を聞きました。

やはり、遷喬小学校も歴史ある学校ですから、なくなることは地域の方も寂しいということもありますし、都市計画も併せた考え方も旧市内の学校については考えていかなければならないと思います。「教育を考える会」も、子どもの教育ということもあるでしょうし、小規模の学校では子どもの教育が十分にできないということも認識してもらうということが一番大切だと思います。明治、東郷、湖南では小規模校転入制度で外部から入って来られる子どもも 10 人程度おられるようです。また、この数も少しずつ増えてきているようですので、これからは環境のいいところに住みたいということもあるかもしれません。小規模の学校でも十分に良い教育ができるという環境にもっていく、示していくということも大切ではないかと思います。どうしても 100 人以上は増えないという学校もあると思いますので、そのような学校でもこのような教育を行えばレベルも上がっていくというようなことも認識していただく、あるいは研究していただくということも進めていただけたらと思います。

委員

この校区審議会は長い歴史がありますが、例えば国府と東中校区の再編などのように、いびつな箇所が整理されました。そのような前例、再編の例を過去にさかのぼってでも活用していく必要があると思います。「教育を考える会」というのはとてもいい取組なのですが、ただ住民の声が入ると、私たちは適正規模ということで進めないといけないのに覆されてしまうことがあります。それが前に進まない理由になってしまっては元も子もないと思います。いい案を出しているはずなので、今も 4 エリアの話が進めばということですが、この審議会での責任で進めないといけないと思います。このような校区問題を議論している組織は他にないので、私たちの責任で再編の基準に沿った案を、倉吉市や八頭町のように出す、4、5 年後を目途に考えているのだということを言わないと、火が付かないと思います。知らなかったという方に深刻に考えていただくためにも、再編案を出さないといけないと思います。統合とかではなく、エリアの改編、自由選択制でもいいと思います。とにかく、目の前に学校があるのに何キロも離れた学校に通っているという子どもたちが本当にかわいそうです。

千代川以西について、台風の時に八千代橋を渡るのはやはり危ないです。昔ですが、「嵐になっているのに、よく子どもを家に帰したな。」とクレームが来たことがありました。ですので、今はそういうことにならないように風が強くならないうちに帰すということを心がけています。そうであれば、やはり安全に配慮した校区を考えないといけないと思います。

委員

私は〇〇委員さんと同じで、どこの地域にも「教育を考える会」をつくっていただきたいと思っています。そこで現実を見ていただいて、先々のことも客観的に見えるようになると思います。まずは、「教育を考える会」というものを立ち上げていくように進めていくべきだと思います。

もちろん、それは統廃合を含めた話だけではなく、本当に特色のある、より良い教育とは何かということを考えるいい機会を与えていただく場になると思うので必要だと思いました。

4 つの検討すべきエリアがありますが、江山中校区は進んでいくと思います。

優先順位を付けるならまず、千代川以西エリアだと思います。千代川以西エリアについては、私も仕事でよく通りますが、子どもにとって通学は厳しいなと思います。そして、距離の面でも、北中まで非常に長い距離があります。高草中の前から北中まで通学するのは、特に冬の時期は厳しい

と思います。それを見ますと、この問題については早急に踏み込んで議論し、考えを促すようにした方がいいのではないかと思います。

この度、神戸校区の方が美和との統合ということを考えておられますが、他にも小規模校はあります。小規模小学校についてはやはり、考えられた方がよろしいかと思います。次回、神戸小学校の授業風景を視察させていただくということで、新しいアイディアが出るのか、小規模はやはり厳しいという考えになるのかはわかりませんが、小規模校の対策というのは大切だと思います。

そして優先順位の最後が、中心市街地エリアになると思います。遷喬小学校は、400m四方の狭い校区の学校ですが、昔はもっと広い校区でした。今年の 12 月 1 日に創立 144 年になりますが、校区を日進、修立、醇風に割っていったという経緯がありました。ですので、学校をなくすというだけでなく、児童数の多い地域から来ることも可能にする再編もあると思いますし、市庁舎問題もあり、その跡地もどうなるかということもありますが、先ほどの話にも出ましたがマンションが建ったらどうなるかとかありますので、もう少しこの中心市街地は検討していってもいいのではないかと思います。ただ、ここで議題になっているわけですから、話し合わなければならない課題だと思っています。

会長

ありがとうございました。皆さんのご意見、感想をお聞きしまして、委員の皆さんがよく鳥取市の今後の校区のあり方の中身をお考えいただいていることがわかりましたし、お互いにおわかりいただいたと思います。

ただ学校を統合するかしないかという話だけではなく、どういう教育をしていくのか、どういう子どもを育てていくのか、また場合によっては校区の変更だけでも効果が上がるということもあると思います。それぞれの学校が抱えている課題が複雑と言いますか、別々ですので、その辺りを整理しながら、一つ一つ丁寧に進めていくということが大事だと思います。そのためには、我々自身がここでの会議だけでなく、色々な資料を準備していただいて勉強していく必要があると思います。例えば、県外の学校の取組についてや、県内でも若桜で小中一貫が始まっていますし、鳥取市の福部未来学園も幼小中一貫を始めていますので、一貫教育の現状と将来計画も勉強したいと思います。今のところ、福部は小学校と中学校の校舎は分かれていますが、将来的に小学校の校舎に移るという構想もあるようですので、その辺りも我々ももっと勉強しながら、より良い学校、より良い人材を育てるような仕組みをここからどんどん提言できるようにしていけたらと思います。「教育を考える会」の要望書の可否を判断するだけでなく、こうあるべきだというものをこの中の会で考えながら取り組んでいきたいと思っています。

次回以降また勉強しながら進めたいと思います。様々な資料をまた準備していただくことになるかと思いますが、事務局の方でよろしくお願いします。

この委員会のあり方を含めて、委員の皆さんから貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。本日はこれで議事を終了したいと思います。では、次回は 12 月 16 日に神戸小学校を視察ということでよろしくお願いします。

視察の次の審議会の日程についても、本日調整させていただきたいと思います。できましたら、私からの提案になりますが、1 月 24 日（火）14 時からではいかがでしょうか。

それでは、視察の次の審議会は、この日程でお願いしたいと思います。司会を事務局にお返しします。

事務局

長時間にわたり慎重なご審議をいただき、ありがとうございました。先ほど会長がおっしゃられ

ましたが、今後も事務局でより詳しい資料をご提示させていただきながら審議をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

それでは、以上を持ちまして、第 3 回鳥取市校区審議会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。

平成　　年　　月　　日

会　　長　　本　名　俊　正

議事録署名委員

署名委員　　川　口　有美子

署名委員　　山　田　康　子